

2015年8月24日  
 東京工芸大学

 いわたに とおる  
 『パックマン』開発者の本学芸術学部教授 岩谷 徹

ゲームの新しい表現形態 全身ディスプレイ型「ゲーミング・スーツ」の開発

及び『パックマン』の開発を称えられ「CEDEC AWARDS 2015 特別賞」の受賞決定

東京工芸大学(学長:若尾真一郎、所在地:東京都中野区 以下、本学)の芸術学部教授 岩谷 徹(以下、岩谷)は、このたび、新しいゲーム表現としてプレイヤー本人が入力デバイスと出力デバイスを兼ねる全身ディスプレイ型「ゲーミング・スーツ」の開発に成功しました。

岩谷は、開発から35年が経過した現在でも人気のあるゲーム『パックマン』(1980年)の開発者であります。岩谷は、現代のゲーム機は、社会に必要な「遊び」の文化的道具とも言えるが、昨今のゲームは、TVモニターやスマートフォン等の画面フレームの中で遊びが完結してしまうため、スケール感、発展性に乏しくなっているとの問題意識を持っていました。そこで、プレイヤー・ディスプレイ・コントローラの3要素を三位一体に構成し、従来にないウェアラブルな表現形態を研究し、「新しい遊び」を社会に提供することを目指してきました。

## 全身ディスプレイ型「ゲーミング・スーツ」の開発

今回開発に成功した「ゲーミング・スーツ」は、マトリクス状に配置したLEDの表現ディスプレイを手・足・胴体にスーツのように装着した新感覚のゲーム機です。

現在、プレイヤー自身が体のLEDによるゲーム画像を見ながら手足を動かしてゲームをコントロールする一人遊び(1体)のゲーム制作の開発を終えており、さらに2体同時にプレイし相互に関係し合う新規のゲーム制作に着手しています。2016年には、新規ゲーム機として完成する予定です。

この三位一体の全身ディスプレイ型「ゲーミング・スーツ」の開発により、新しいゲーム表現形態が可能となり、これまでにない「遊び」の提供に貢献します。また、体全体を動かしてコントロールしながら演舞する立ち振る舞いの美しさを表現する新規のアート表現体となります。さらに屈伸や足で振り払うなどリハビリテーション機としての応用も可能なため、社会への貢献も期待できます。

※「ゲーミング・スーツ」は、以下の「CEDEC 2015」にて展示・実演されます。

## 岩谷が「CEDEC AWARDS 2015 特別賞」の受賞決定

日本最大のコンピュータエンターテインメント開発者向けカンファレンス「コンピュータエンターテインメントデベロッパーズカンファレンス2015」(CEDEC=セデック)において開催する「CEDEC AWARDS 2015 特別賞」の受賞が決定しました。「CEDEC AWARDS」は、コンピュータエンターテインメント開発の進歩へ顕著な成績のあった技術にフォーカスし、技術面から開発者の功績を称えるものです。なお、授賞式は、CEDEC2015会場内にて8月27日に行われます。

(特別賞受賞理由)『パックマン』はアーケードゲームの黎明期において、当時社会現象ともいえる一大ブームを巻き起こした。その人気ぶりは、我が国にとどまらず世界中に広がり、今なおプレイされているだけでなく、映画、アニメなどでもモチーフに使われるなど、幅広い世代に愛されている。まさに、今日に続くゲーム業界の礎を築いた。～CEDEC運営委員会発表～

### 【CEDEC2015 及び CEDEC AWARDS 2015 の授賞式について】

開催期間・時間	2015年8月26日(水)～8月28日(金)
会場	パシフィコ横浜(神奈川県横浜市みなとみらい)
授賞式日時・会場	8月27日(木)17時50分～ CEDEC2015会場内にて

### 【本リリースに関するお問い合わせ先】

東京工芸大学 中野キャンパス庶務課 電話 : 03-5371-2670 / FAX03-3372-1330  
 担当 : 栗原/菅野 e-mail : shomu.nakano@office.t-kougei.ac.jp



岩谷 徹(いわたに とおる)  
(東京工芸大学 芸術学部ゲーム学科 教授)

1977年に株式会社ナムコ(現:株式会社バンダイナムコエンターテインメント)に入社。  
1980年にビデオゲーム「パックマン」を制作。「パックマン」は世界でもっとも成功した業務用ビデオゲーム機としてギネスブックから認定された。  
日本デジタルゲーム学会理事、株式会社バンダイナムコエンターテインメントフェローも兼ねる。

添付2 「ゲーミング・スーツ」画像

\*2014年度 1体「ゲーミング・スーツ」

LED : 3584 個 (16×16 のLEDシートが14枚)

